（掲載日：R6.12.13）

分野／取組	保健医療／医療
当時の 所属・役職	県立こども病院　感染症内科部長（R2.4～R6.3）
現在の 所属・役職	県立こども病院　感染対策部長兼小児救命救急センター次長・感染症内科部長
氏　名	笠井　正志

1　主に担当した業務

・県立こども病院で新型コロナ感染症対策実務（令和２年１月～現在）
・兵庫県感染対策アドバイザー（令和４年４月～令和６年３月）
・兵庫県感染症対策連携協議会委員（令和５年４月～現在）
・県立こころの医療センター感染対策指導医（令和２年３月～令和５年５月）

2　印象的だったこと

・対策本部会議への出席。知事のリーダーシップ、山下保健医療部長のパワーに感銘を受けました。また多くの県職員が一丸となってコロナに立ち向かっていることを実感しました。県の職員というのは真面目で有能な方が多いと思いました。
・2021 年 12 月（第６波）からの小児における大流行。小児の感染対策の難しさとコロナ医療とコロナ以外の医療を両立することの困難さを実感しました。大事なのは平時からの関係性だと思いました。
・なおみチャンネル※に出演できたこと。

※兵庫県ってなんだ? ーなおみチャンネルー
兵庫県広報広聴課の公式 YouTube。兵庫県広報専門員の清水奈緒美が管理人。

3　うまく対応できたこと・反省点

・うまくできた半分・反省半分ですが、小児 COVID-19 入院患者をリアルタイムモニタリングし、それをフィードバックする仕組み（PEMIS）の事業化ができました。導入にはエネルギーを必要としましたが、感染症対策課のメンバーとの良いチームワークで、作り込むことができました。（本当にありがとうございました。）
・小児ワクチン接種率向上に資する活動はいろいろやってみましたが、結果は得られませんでした。

4　今後の新たな感染症への対応に活かしてもらいたいこと

・早期に行政と医療現場がコミュニケーションを取る場（プラットフォーム）を立ち上げることです。

・特に政令市である神戸市と情報共有することはぜひお願いしたいです（平時からの関係性が重要だと思います）。

・小児、妊婦、精神疾患患者など「特別配慮を要する」患者とその対応をしている現場の支援をお願いしたいです。

5　その他

感染症は災害と同様に危機管理となります。地方衛生研究所の健康危機管理や疫学解析をする部門などの拡充が必要と考えます。そのためには、専門家の育成が重要となります。まずは県内の感染症医と行政との交流、国立感染症研究所にある実地疫学専門家養成コース（FETP-J）への医師派遣などが第一歩になると考えます。